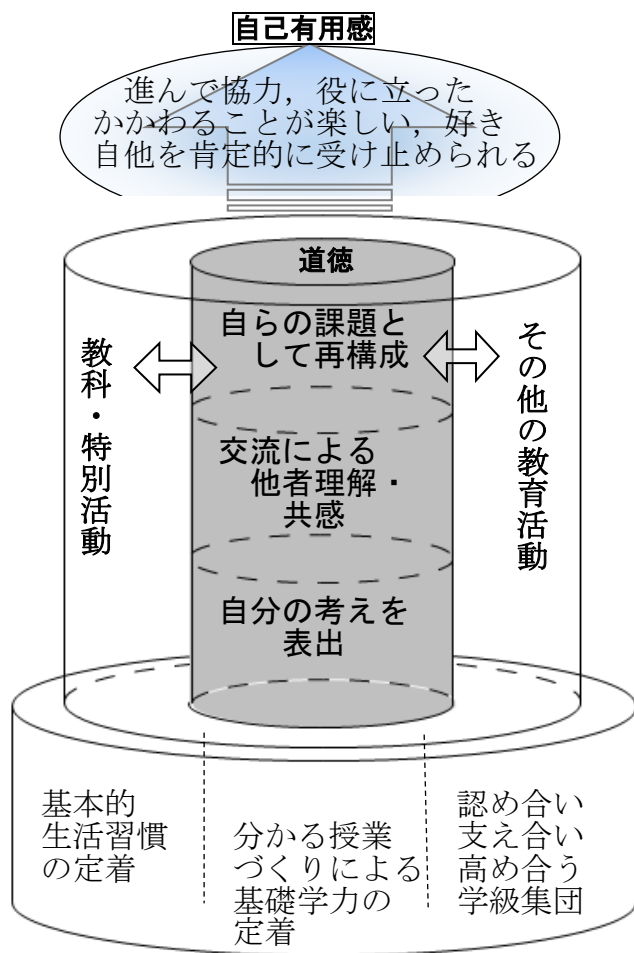


第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 104

学校名・団体名	土庄町立土庄小学校
HPアドレス	http://www.niji.or.jp/school/tonosho/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	主体的に、よりよく生きようとする心を育む道徳 学習
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は4校が統合して3年目を迎えるが、小規模校では幼いころから馴染みがあり言葉で伝えなくても理解し合える安定した関係の中で一人一人に活躍の場があった。しかし統合校では、人数が多く気後れしたり、自分の気持ちを伝えることが苦手でうまく関われなかったりと、自信をもてない子どもがいる。そこで、協同での学び合いや体験活動を通して、道徳的価値を認識し自己有用感を高め、よりよく生きようとする心を育むことで、自信をもってをねらいとした。</p>	



【研究構想図】

1 研究活動

①道徳の研究授業

自ら考え、交流、自らの課題として再構成する道徳授業を目指す。また、地域の人材ボランティアの方の話を聞いたり体験活動を取り入れたりする。

②道徳の日の推進による実践化

毎月、行事や児童会活動等の全校活動に合わせて道徳の日を設定し、家庭で保護者と話し合わせたり校内に掲示したりして、家庭と学校とが連携する。


③たてわり班活動による異学年交流

月1回程度の自由活動で班員全員が楽しむ活動を考えて実践する力と、日々の清掃で目的を達成するために役割を自覚して行動する力を育てる。

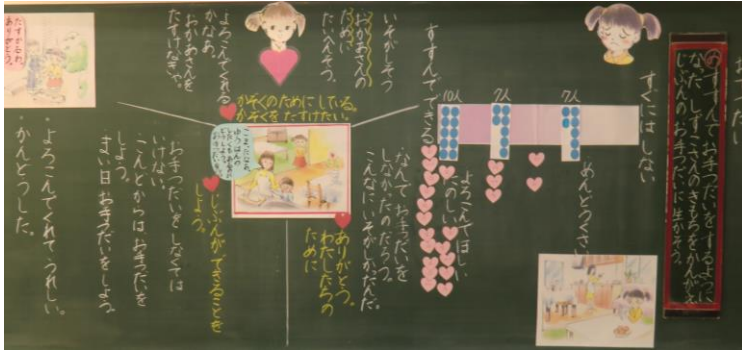
④「あろはそ運動」の定着

心を育む基礎として、基本的な生活習慣の定着、基礎学力の定着、学級集団づくりを掲げ、特に、あいさつ、廊下の歩き方、はきもの(靴)揃え、掃除(無言清掃)を年間通して指導する。

2 内容

月 日	道徳授業の取組	常時活動
4・5月	計画, 部会別提案	 道徳の日 たてわり班活動
6月14日	6年研究授業(教育委員会指導主事による指導)	
9月13日	2年研究授業(香川大学教授による指導) アセスメント①	
20日	5年研究授業(指導主事による指導)	
10月	個人研修発表	
11月22日	公開研究発表会(3年研究授業(香川大学教授による指導))	
25日	町人権フェスタで成果発表	
1月17日	4年研究授業(指導主事による指導) アセスメント②	
24日	1年研究授業(指導主事, 香川大学教授による指導)	
2・3月	成果と課題の検証, 研究のまとめ冊子作成, 次年度の検討	

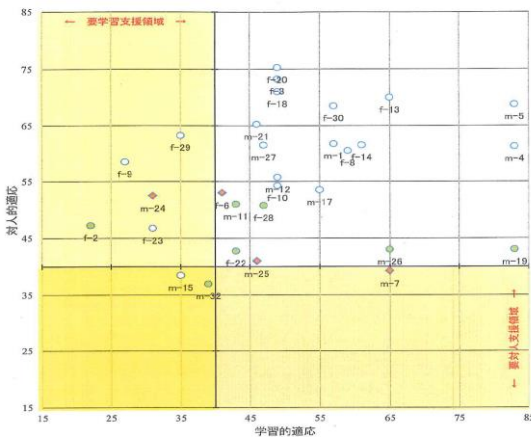
3 実践



道徳の授業では、様々な価値がある中での判断力を育てるために、心情のスケールチャートを使ったり役割表現を取り入れたりして話し合う活動に重点を置いた。また、学年それぞれの担任が1つの道徳授業を他の学級でも行うローテーション道徳によって、学年で揃っての実践を大切にしたい。

【スケールチャートを使った板書】

道徳の授業とともに、学級経営にも重点を置き、香川大学七條先生のご指導のもとアセスメントを取り入れた。



児童の自己評価と担任の見取りとの違いを学年団で検討し、児童理解について学年団で共有した。2回目のアセスメントでは変容した児童への取組を話し合い、よい実践を取り入れていった。「ほめ言葉のシャワー」等、自己肯定感を育てる試みが増えていった。

「あろはそ運動」は月の重点生活目標として取り組み、月末には児童アンケートで得点化し意識付けるようにした。

【児童の自己評価アンケート】

4 成果と課題

- 道徳的価値をもとに、どう判断して行動するかを話し合うことで「議論する道徳」授業をめざし、生活と結び付けることができてきた。
- 初めは、児童の自己評価と教師の見取りとの違いに戸惑いもあったが、学年団で検討することで、多面的に捉えることができ、様々な実践を取り入れ学級経営に活かすことができた。教員が肯定的な言葉かけをすることが増えていった。
- たてわり班活動は、なかまづくりに大変有効で、最初の班編制や計画等に時間はかかるが、高学年はリーダーシップを発揮し下学年の面倒を見るようになる。